



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社ショーエイコーポレーション
 コード番号 9385 URL <http://www.shoei-corp.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理・企画担当
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 芝原 英司
 (氏名) 有村 芳文
 TEL 06-6233-2636

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	14,333	7.4	359	64.6	343	65.3	218	67.3
2021年3月期第3四半期	15,486	8.5	1,014	112.3	989	116.8	666	137.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 136百万円 (78.1%) 2021年3月期第3四半期 622百万円 (109.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	28.25	
2021年3月期第3四半期	104.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	13,142	5,377	35.9	610.05
2021年3月期	10,287	4,733	46.0	612.52

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 4,714百万円 2021年3月期 4,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		20.00	20.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,074	7.0	279	77.0	276	74.2	150	77.7	19.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規1社 (社名) 株式会社ファインケメティックス、除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	7,850,000 株	2021年3月期	7,850,000 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	122,736 株	2021年3月期	121,736 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	7,727,740 株	2021年3月期3Q	6,383,087 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の環境下において、緊急事態宣言の解除やワクチン接種対策の展開に伴う感染者の減少によって行動制限の緩和、それに伴う人流の増加等、段階的な景気の回復が期待されましたが、新たな変異株(オミクロン株)の急激な感染拡大の警戒感から消費環境や企業収益が悪化した状況が続き、先行きは依然として不透明な状況が続いております。また当社グループを取り巻く外部環境につきましては、世界的な原油価格の高騰による原材料価格の高騰や為替の変動による円安傾向等、経営に対して厳しい状況が続いております。コロナ禍が続く中で、消費動向にも変化が生じており、それに対する取引先企業の取り組みもコロナ禍の情勢を見ながらの試行錯誤の対応が続き、大口取引先の停滞、大口案件の受注の先送りが依然続いている状況でありました。

そのように顧客への提供価値が変化している中で、当社グループは、これまで培い蓄えてきた企業価値を最大限高め、さらなる成長を目指し、2021年4月に新経営ビジョン「「おどろき！の快適」を追求し包摂する、感動創出メーカーになる・一人ひとりが考え抜き、最短・最速・最適に挑戦し続ける」を設定いたしました。高収益企業となることを事業活動の指針として、OEMを含めた購買行動促進のための販売促進支援活動という事業形態を見据えて活動してまいりました。その目的遂行の一環として、ジェイ・エスコムホールディングス株式会社との化粧品及び通信販売事業における商品共同開発等の業務提携を進め、同社関連会社である株式会社ファインケメティックス(化粧品・医薬部外品のOEMメーカー)を買収いたしました。東京2020オリンピック・パラリンピック大会終了時から企業からの販売推進の受注もコロナ禍収束に向けて回復の兆候があると対応してまいりましたが、営業促進事業においては大口取引先及び新規開拓先の受注の先送りは依然続いており、加えて商品販売事業においては原材料価格の高止まりや円安傾向による売上原価への影響度は大きくなってきており、その対応策を検討しております。当社グループは今後、化粧品OEMを含めた付加価値商品の開発力、国内仕入調達力を生かした事業戦略を進め、改めて企業価値を高め、成長を目指すこととしております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は「収益認識に関する会計基準」等の適用による752百万円の減少、高収益である販売促進売上の減少（前年同期比16.2%減）によって14,333百万円（前年同期比7.4%減）となりました。利益面につきましては、原材料価格の高騰や円安による売上原価の増加（前年同期売上原価率比0.9ポイント増）、企業価値調査費用や不適切取引に関わる監査費用等による販管費の増加（前年同期比11.2%増）により、営業利益は359百万円（前年同期比64.6%減）、外部調査委員会の費用を営業外費用に計上したことで経常利益は343百万円（前年同期比65.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は218百万円（前年同期比67.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(営業促進支援事業)

当セグメントにつきましては、お客様自身の営業を一層促進していただくために、企画から配送にいたるまで商品・サービスの提供、支援をする事業であり、販売促進、OEM、発送代行の3つの売上で構成されております。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、社会経済活動の停滞を背景とした企業によるプロモーション活動の見送り、各種イベント開催の自粛の影響により、販促品キャンペーンを軸とする販売促進は大口顧客の停滞等により大変厳しい状況下であり、売上は減少（前年同期比688百万円、16.2%減）いたしました。前期は堅調に推移していた化粧品等のOEMも大口の受注案件の新商品投入の延期等がありましたものの、株式会社ファインケメティックスを子会社化することによって売上額は若干の減少（前年同期比10百万円、0.6%減）に留まりました。また発送代行は「収益認識に関する会計基準」等の適用もあり売上は大幅に減少（前年同期比757百万円、32.3%減）いたしました。販売促進の売上減少等によって利益率が低下しており、セグメント利益額は大幅に減額しております。

その結果、売上高は6,822百万円（前年同期比17.6%減）、セグメント利益は441百万円（前年同期比46.2%減）となりました。

（商品販売事業）

当セグメントにつきましては、100円ショップやドラッグストア、小売販売店に対して、商品を企画提案し、調達し、そして提供する事業であり、100円ショップ向け、量販店向け、新聞販売店をはじめとするその他の先に対する3つの売上で構成されております。コロナ禍において、テレワーク、GIGAスクール構想等によって生活形態に変化が生じており、100円ショップ向けはポリ製品を中心とした消耗品、キッチン周りの新商品、電子機器周辺商品等の売上が増加（前年同期比191百万円、3.5%増）いたしました。量販店向けは、新規開拓による取引先の増加と、それに伴いポリ商品および紙商品等の売上が増加（前年同期比29百万円、2.9%増）いたしました。また新聞販売店をはじめとするその他の売上は新聞販売店向けの雨避けラッピングフィルムの販売が振るわなかったものの、その他の商品の販売が増加（前年同期比65百万円、9.5%増）いたしました。しかしながら利益面につきましては、世界的な原油価格の高騰によって原材料価格は前期に比較して1.32倍となっており、為替も一昨年106円前後であったものが、10月より114円台を超え、12月には115円台へと進み、タイ子会社においては業務改善、販管費の抑制等を進めましたものの、原材料費の増加等による売上原価が悪化し利益率の低下は避けられず、セグメント利益額は大幅に減額しております。

その結果、売上高は7,505百万円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益は311百万円（前年同期比49.4%減）となりました。

（その他の事業）

その他の事業につきましては、物流倉庫の賃貸を行っており、売上高は18百万円（前年同額）、セグメント利益は12百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,142百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,854百万円増加しました。これは主に電子記録債権が減少したものの、受取手形及び売掛金や原材料及び貯蔵品、有形無形固定資産等が増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は7,765百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,210百万円増加しました。これは主に未払法人税等が減少したものの、短期借入金等が増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は5,377百万円となり、前連結会計年度末に比べ643百万円増加しました。これは主に非支配株主持分等が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し業績の見直しを行った結果、2021年7月21日に公表いたしました予想を修正しております。

なお、詳細につきましては、本日（2022年2月14日）公表いたしました「2022年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	943,536	1,059,526
受取手形及び売掛金	2,846,922	3,289,788
電子記録債権	693,437	565,223
商品及び製品	2,324,382	2,227,819
仕掛品	135,488	164,618
原材料及び貯蔵品	132,707	445,624
その他	327,958	346,019
貸倒引当金	△1,731	△1,116
流動資産合計	7,402,702	8,097,503
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,125,075	1,414,975
その他 (純額)	820,246	882,989
有形固定資産合計	1,945,321	2,297,964
無形固定資産		
のれん	-	329,474
顧客関連資産	-	1,427,812
その他	136,467	112,483
無形固定資産合計	136,467	1,869,771
投資その他の資産		
その他	833,185	906,081
貸倒引当金	△29,861	△29,044
投資その他の資産合計	803,324	877,036
固定資産合計	2,885,113	5,044,772
資産合計	10,287,815	13,142,275
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,330,000	1,472,183
短期借入金	2,690,000	4,110,000
1年内返済予定の長期借入金	88,550	151,078
未払法人税等	262,442	43,404
未払消費税等	36,417	73,949
賞与引当金	116,593	79,218
その他	505,724	501,551
流動負債合計	5,029,728	6,431,385
固定負債		
長期借入金	54,300	389,606
退職給付に係る負債	39,155	70,483
長期末払金	144,212	144,212
その他	286,665	729,337
固定負債合計	524,333	1,333,639
負債合計	5,554,061	7,765,025

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	715,615	715,615
資本剰余金	915,408	915,408
利益剰余金	2,908,603	2,972,321
自己株式	△56,918	△56,918
株主資本合計	4,482,708	4,546,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	165,488	150,859
繰延ヘッジ損益	28,561	-
為替換算調整勘定	56,994	16,738
その他の包括利益累計額合計	251,045	167,597
非支配株主持分	-	663,226
純資産合計	4,733,753	5,377,250
負債純資産合計	10,287,815	13,142,275

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	15,486,520	14,333,784
売上原価	12,061,697	11,293,214
売上総利益	3,424,823	3,040,569
販売費及び一般管理費	2,410,749	2,681,375
営業利益	1,014,074	359,194
営業外収益		
受取利息	221	138
受取配当金	6,423	7,881
為替差益	26,231	30,564
デリバティブ評価益	-	24,787
資材売却収入	2,792	3,161
債務免除益	-	18,274
その他	760	5,602
営業外収益合計	36,429	90,409
営業外費用		
支払利息	19,700	18,172
デリバティブ評価損	26,086	-
新株発行費	10,398	-
調査関連費用	-	86,476
その他	4,365	1,419
営業外費用合計	60,551	106,068
経常利益	989,951	343,535
特別利益		
固定資産売却益	-	327
特別利益合計	-	327
特別損失		
固定資産売却損	-	1,083
固定資産除却損	573	2,058
特別損失合計	573	3,141
税金等調整前四半期純利益	989,378	340,720
法人税、住民税及び事業税	268,965	94,018
法人税等調整額	53,485	27,091
法人税等合計	322,451	121,110
四半期純利益	666,927	219,610
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	1,327
親会社株主に帰属する四半期純利益	666,927	218,282

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
四半期純利益	666,927	219,610
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36,535	△14,194
繰延ヘッジ損益	△29,806	△28,561
為替換算調整勘定	△50,695	△40,256
その他の包括利益合計	△43,966	△83,012
四半期包括利益	622,960	136,598
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	622,960	134,835
非支配株主に係る四半期包括利益	-	1,762

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間より、株式会社ファインケメティックスの株式を取得し、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、代理人取引に係る収益認識であります。顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は752,138千円減少し、売上原価は749,576千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,562千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。